

母と子のにわ

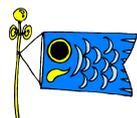
Vol.10 spring 2006

編集・発行

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立母子保健総合医療センター
〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840
0725-56-1220 Fax 0725-56-5682

ホームページ <http://www.mch.pref.osaka.jp/>

目次



総長からのごあいさつ	藤村 正哲	1
新しい絵画の紹介	森口ゆたか	2
ボランティア活動紹介4「おはなしでんしゃ」	岡田 美保	3
入院中の看護に対する満足度調査 の実施結果	上吹越美枝	4



総長からのごあいさつ

平成18年4月から、大阪府立母子総合医療センターは「地方独立行政法人大阪府立病院機構」



地方独立行政法人
大阪府立病院機構

の一員となりました。新法人は今まで通り大阪府域の周産期と小児医療の専門的な基幹施設として、地域の医療機関と協力しつつ、高度医療の提供

に努めることになっています。大阪府から今までと同額の運営交付金を受けて、皆様の医療を確保する責任を果たします。なおこの法人は大阪府が設立する特定地方独立行政法人で、職員は公務員の身分を継続しており、センターの業務は大阪府

知事と議会の承認した事業の範囲で行われますが、法人化によって今まで以上にセンターの自主性を発揮できることとなります。

母子医療センターは、創立以来25年間、府民の皆様のご支持をいただきながら発展し、日本で有数の周産期・小児病院としての評価を得てまいりました。これからは、この築き上げた実績と経験を生かしてゆくことは当然ですが、新法人としていっそう独創的で府民の皆様の健康に貢献できる、また満足度の高い医療を提供してゆくべきであると考えています。“安心と安全の医療を提供してほしい”という皆様からの信託に応えると同時に、他に抜きん出た質の高い医療を提供するという職員一同の自負をさらに推し進めたいと願っています。どうかこれからも温かいご支援をお願い申し上げます。

(総長 ふじむら まさのり 藤村 正哲)

大阪府立母子保健総合医療センター

基本理念

周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。

患者さん中心の、相互信頼の立場に立った、質の高い医療を行います。

地域の保健医療機関と連携して、母子保健医療を推進します。

母子に関する疾病の原因解明や、先進医療の開発研究を進めます。



母子センターに新たに 14 点もの絵画作品がお目見えしました

まず地下 1 F に設置された絵画を東側から順にご紹介しましょう。エレベーター C を降りて真っ先に目に



ひつじに会ったよ

飛びこんでくるのが、中村真由美さんの「ひつじに会ったよ」という作品です。真っ青に澄み切った空の下、牧場を訪れた真由美さんがひつじに出会った時の感動がストレートに表現されています。面白いのは羊の表現で、羊の身体の上部には真っ青な空が映っています。彼

女独特の光と影の表現をお楽しみ下さい。

その斜め前にあるのは東京の若手作家である綿引展子さんの作品。「わらってばかりいたね」というタイトル



わらってばかりいたね

ルで、この絵を見ると誰もが自分の子ども時代を思い出すのではないのでしょうか？和紙の上に水彩とオイルパステルで描かれた珍しいマチエールです。子どもの持つ率直さが大胆な表現方法により、ス

トレートに見る人の心を掴みます。上村亮太さんの「ピンクの部屋」は色も鮮やかな、見る人の心をワクワクさせるような画面です。ハート形もたくさん見えますし、春の陽指しが降り注ぐ温かい部屋で楽しい時間を過ごしているような気分させられます。

次に、また中村真由美さんの「魚」が登場します。迫力のある画面に思わず足を止めて見入ってしまいます。前述のように独特の光と影の表現方法を用いる彼女ですが、この絵は深海に住む魚が妖しい光を放っているようでもあります。

売店近くにある作品は上村亮太さんの「サボテン畑と鉄塔」です。この絵は一見明るい絵のようであるが、よく



サボテン畑と鉄塔

く見るとかなりブラック・ユーモアというか、ロウソクが空から無数に降ってきているのですが、その下の鉄塔とサボテンとの関係性

の中に作者がどのような寓話を盛り込んだのかは見る人の想像力に委ねられていることでしょう。

西側エレベーター・ホールから食堂に続く通路には藤村時代さんの 3 点の作品が展示されています。「赤たこ」は紙の上に顔料ペンで描かれていて、彼女の軽快なペンさばきが伝わってきます。たこの表現方法も独特で、全部のたこが同じ方向を向いて並んでいることによって生み出されるリズム感、作品をとっても魅力的なものにしています。

次の「×ちゃん」は × を単なる形状として捉えるのではなく、擬人化された様子がユニークで面白い作品です。擬人化という点では食堂横に設置された「デカプリン」もまた様々なプリンに顔が描き込



デカプリン

まれています。これらはプリンに顔が描かれたようでもあり、プリン

を食べて満足げな子ども達の顔のようでもあります。いずれにせよこんなユーモラスで楽しい絵を見たら、食堂で「デカプリン」を注文してみたくくなりますよね。

1 F には山野将志さんの 3 点の絵が設置されました。

「**びわの絵**」は92cm×117cmの大作です。大きなびわ



の木が両手一杯にあなたを迎え入れてくれます。たわわに美味しそうなびわの実がなっ

ています。見る人に確実に元

気を与えてくれる絵です。「**チクチクしているサボテン**」は大胆な構図とカラフルな色合いが魅力的です。「**カボチャの絵**」の魅力も他の2点と同じように大胆な構図とカラフルな色面構成によって支えられています。

2Fの分娩室3室に設置されたのは、作家の杉山知子さんのシリーズ3部作です。「**Sogen to wedding cakes**」には結婚式のケーキがたくさん並んでいます。「**Sogen to houses**」では結婚して家族が出来ました。「**Sogen to community**」では家族がたくさん集まってコミュニティが生まれました。杉山さんは家族という

ことを主題に、自身の母としての体験から様々な作品を生み出しています。これらの作品は、ある出版社



Sogen to houses

が出している、小学校社会科の授業の副読本の表紙絵としても使われています。分娩室という現場にまさにふさわしい絵ではないでしょうか？出産という大仕事を前に不安な気持ちを抱える妊婦さん達

が心を癒されるような明るい色調と主題の作品です。3点の作品がそれぞれ偶然にも分娩室の壁紙の色と上手くマッチし、優しい居心地の良い空間に生まれ変わりました。

これらの作品達が不安や大きなストレスを抱えている病院内の全ての人達に、一時でも心のオアシスをもたらしてくれますように！

(NPO法人アーツプロジェクト 森口 ゆたか)



母子センターでのボランティア活動紹介4 本読みボランティア「おはなしでんしゃ」



こんにちは！ 私達は絵本や紙芝居を通じて、子供達に少しでも楽しい時間を過ごしてもらえたらと思い活動しています。

平成15年10月より活動を始め、現在7名の会員です。私達も小学生の子供をもつ母親集団ですので、月一回の活動になりますが、回を重ねる毎に、本読みを待っていてくれる子供達やお母さんに出会えて嬉しく思っています。また、病棟でもプレイルームの準備や呼びかけの放送をしていただいたりと、大変励みになっています。

絵本や紙芝居は居住地の松原市民図書館で借りています。大型の絵本や紙芝居などが揃っていますので、活用しています。グループ名の「おはなしでんしゃ」はアナトリウムにある機関車やセンター内を巡回するときに使う小型のBOXから名付けました。

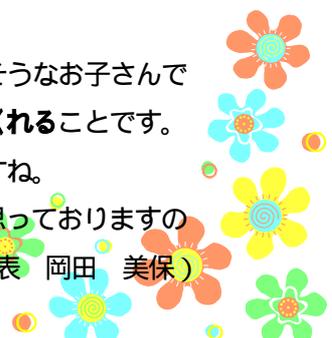


私達のでんしゃに子供達と絵本を、いっぱい乗せてセンター内を巡回したいという思いからです。

活動の中で一番嬉しいのは、最初は興味の無さそうなお子さんでも、**話が進むに連れて目をキラキラさせて集中してくれること**です。たとえ言葉がなくても子供達の目は本当に正直ですね。

私達は**鉄道の線路のように細く長〜く続けていきたい**と思っておりますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

(代表 岡田 美保)





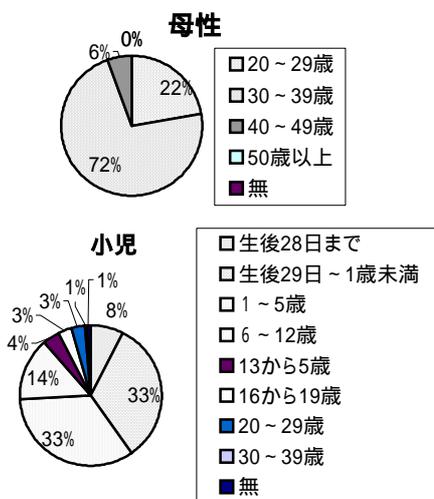
入院中における看護に対する満足度調査の実施結果

看護部主任会 代表 福井 伊佐子

看護部主任会では、平成 17 年 11 月 11 日入院中の患者さんを対象に「入院中における看護に対する満足度調査」を実施しました。その目的は看護の質の向上につなげることにあります。

当日は 268 名に配布し、176 名(65%)から回答をいただきました。

回答者の年齢分布



入院期間は1週間未満・1週間から1か月が各々32%、1か月から3か月未満が18%でした。

入院理由は検査 13%、手術 29%、内科的治療 27%、お産が 22%でした。

問7の「望んでおられる看護

とは」の問いには、117名(66%)の方の記入があり、「不安を軽減する、不安にならないような態度・言動などの安心できる看護」を 21.5%が、「挨拶や声かけ・優しさなど接遇面」を 13.6%が、「豊富な知識や的確な判断などの技術面」を 6.8%の方が書いておられました。看護師自身の態度や言動で満足が大きく変わることが伺えます。

問8では「心のこもった看護とは」の考えをお聞きしました。117名(66%)の方の記入があり、「挨拶や笑顔・年齢に合わせた声かけ・やさしさなどの接遇面」が 26.4%、「患者の立場になって考える」という意見が 22%、「不安を取り除く」が 7.7%、「親身になって」は 6.8%でした。また、「家族の立場に立って気持ちを考える」という『母親の思い』が 7.7%あり、患者さんへの関わりはもとより、子どもの入院生活や病気への不安から生じる母親の葛藤に看護師がどれだけ寄り添えるかという家族看護が求められていると感じます。

また、「院内を清潔に」という意見も 1.7%ありました。

問9の、「子どもの発達に応じた看護」「苦痛・恐怖・不安を和らげるような看護」「信頼できる看護ケア」「わかりやすい説明」「その時々に応じた医療や育児の情報提供」「プライバシーを考慮した看護」を受けることができたかの問いには、90～95%以上が大いに思う・思うと答えてくださいました。しかし、まったくそうは思わない方も 2～3名おられ、「何も聞いていない」「不安な思いをした」などの意見を真摯に受け止める必要があると感じています。

環境面に関しては、28%の方がよいと思わない・まったく思わないと答えておられました。特に多いのは室温調節が難しいや乾燥が激しいという意見でした。照度については、部屋全体が暗い・夜なのに明るい・照明が調節できないなどがありました。音環境は、赤ちゃんの泣き声・同室者のテレビ音がうるさい、夜間の掃除音や安静時間の搬送台車の音などがあげられていました。NICUで保育器内に収容している児に対する照度調節のカバーがよい、という意見も聞かれました。設備面の問題もありますが、看護師が配慮することで改善すべき点もあると考えられます。結果を事務局へ伝達し、共に改善の努力をいたします。

また、「またセンターの看護を受けたいと思いますか」「知人に薦めますか」の問いには、99%が肯定的に答えてくださいました。そう思わない方は「安心できる看護ではないから」という意見でした。

昨年も同様の調査をいたしました。環境面は苦情が増加しているものの、看護の面についてはわずかながら肯定的な意見が増加しました。今後も皆様のご意見を参考に、看護部の理念「親と子の絆を大切に 心のこもった看護を提供する」努力を続けたいと思えます。ご協力ありがとうございました。

(まとめ 看護管理室 上吹越 美枝)

大阪センチュリー交響楽団による
院内コンサートのお知らせ
とき：5月29日(月)
お楽しみに！！